

11がっ



しいのみぐみ
たんぽぽぐみ
みずぐみ



クラスだより

2025.11.29

～円町まぶね隣保園～

秋の心地良い日差しを感じながら、お散歩に出掛けることが出来た11月。
0、1、2歳児クラスでは、インフルエンザが大流行した月でもあります。元気な笑
い声や泣き声が戻ってきて、ひと安心です。これから、本格的な冬が訪れますが、
朝食をしっかりと食べ、体温を上げることで、寒さに負けず、朝から元気に活動
出来る身体づくりを目指しましょう。

しいの実ぐみ

11月から、新しいお友だち1名を迎えて、8名になりました。
前半は、体調を崩す子どもが、多かったですが、今では、すっかり回復して
元気に登園しています。

収穫感謝祭 3階に、全国児が集まりました。おたのしみでは、
土を耕やして、種をまき、どんどん大きくなって実になるおはなです。くわが
出てきて、花が咲いたり、太根、人参、ぶどうがでてきたり、次々に出てくる
ものに興味津々で見ました。みんなが、家から持ってきた野菜にも
触れました。指でつまみつまみ、両手で持ち上げたり、野菜によ
う重さや触り心地、色も違うので、2つ、3つと触って楽しんでいました。

他クラスとの交流を通して

しいの実ぐみだけでの活動は、もち
ろん、他クラスとの交流の時をたくさん持ちました。まだお互いに関わり
合えてみることが難しいですが、異年齢の友だちには、やさしく関わって
もらっています。散歩に行く時は、一緒に手を繋いでもらったり、室内
あそびの時は、「このおもちゃをみえよう」と次々におもちゃを渡して
もらったり、お友だちのおもちゃを借りたり、お友だちのやりとりや声を聞いてもらって
楽しいひとときを過ごしていました。その中で、自分のお兄さんお姉さん
にしていることをよく覚えていて、しいの実ぐみの友だちとあそんでいる
時には、自分が使っているおもちゃを「はい」と渡してあげたり、誰かが
泣いていると「どうして？」とばかりに、頭をなでて、お話を
あげたり、まきこさんの食べ物をお皿に乗せて友だちと一緒に食べていたり、
コップを渡して「かんぱー」とするほど、お兄さんお姉さんになっている
ことに憧れを持ち自分もやってみようとする姿がみられます。これから、どんどん
友だちとのやりとりが活発になってくると思います。時には
見守り、時には、保育者がイヤミをしてみせながら、発展するように
楽しんでいきたいと思っています。

寒さに負けない身体づくり

だんだんと寒くなってきていますが、
この時期から着る習慣をつけると、病気にも負けない身体になっ
ていきます。少し寒くなると、ついもう一枚と服を着せてしまいがちですが、
子どもは、絶えず活動しています。また新鮮な空気もたくさんです。この時に
大人と同じだけの衣服を着ていると、かえって身体の働きを弱めます。衣服は大人
より一枚少なくするのが目安です。保育室の中は、暖房や床暖房で、子ども
たちの半袖、半ズボンの動きやすい服装で活動できるように温度調節しています。
体調のすぐれない時は、着脱しやすいお着替えを用意しています。

たんぽぽぐみ

外に出ると冷たい風が吹き、もうすぐ冬に入るんだなと感じる
季節になってきました。早いもので、もうあと1ヶ月で今年も終わろうと
しています。11月前半はインフルエンザが流行り、なかなかみんなが
そろわないということもありましたが、少しずつ元気いっぱいな子ども
たちに戻りつつあります。外に出る時には、トレーナーや長ズボンをはい
て、外にあそびに出かけるようになりました。着がえの時など、今までは
「やって！」と保育者の元へ持ってくるのが多かったのですが、最近では
自分で少しずつ出来るようになり、「見て！できた」と嬉しそうに伝えに
きています。11月後半は収穫感謝祭もありました。給食などで出る
野菜のそのまの姿を見て、触り、こんな手触りしているのかとみんな
で楽しむことが出来ました。自分のマークの野菜を伝えると「これ〇〇
のやさい？」と気づいたのか、嬉しそうに持っていました。

＜みてみて＞

子どもたちは自分が何かをして出来た時に
「みてみて」とよく言っています。保育者も一緒に
なって「すごいね！」と喜ぶと子どももとても嬉しそ
うです。2歳を過ぎたあたりから出てくるこの「見て
見て期」は自我の成長が見られるイヤイヤ期と同じくらい大事です。
少しずつ出来るようになってきたこと、すごいと思ったことを見てほしいと
思うのが見て見て期です。子どもが何に対して見てと言っている
のかを理解し、子どもと同じ目線で「わあ、本当だね、できたね」など、
これからその気持ちに応えることを意識したいと思っています。忙しい
時はつい返事が適当になってしまうこともあると思いますが、大人が
「見て見て」に反応し、視線を合わせ受けとめることで、子どもの
欲求も満たされていきます。子どもたちが一人ひとり受けとめ
られるよう、各家庭と連携をとってこれからも成長を見守って
いきたいです。



みずぐみ

～お散歩～

お散歩が大好きなみずぐみの子どもたち。少し遠い場所でも、
いかり歩ける体力がつかえました。そんなある日、たんぽぽぐみが乗
ろうと思っていたお散歩カーに、「のりた～い」と数人がしがみ
つく姿がありました。でも、「みずぐみさん、かこよく歩けるようにな
ったから大丈夫やと思うな～」と声を掛けると、あきらめて(?)歩
くことを決意していました。その日は、実習生さんもいて、手を繋いで
もらうことも楽しみの1つとなり、一条町公園でおいも走り、島
津アリーナへ行き帰ってきました。

いせにも、「秋を見つけに行こう」と出掛けたり、妖怪を探しに行
ったり、室内で過ごした後、鹿垣公園で鬼ごっこ、どんぐり拾
いに行ったりと、お散歩を楽しんでいます。歩くことだけに、ただ
ただ必死だった夏前のお散歩とは違い、おしゃべりも楽
しめる余裕が出てきた子どもたちです。

～集団あそびは、学びがいっぱい～

子どもたちは、生活の中にはもちろんのこと、あそびにもルールがあ
ることを、少しずつ知っていきます。「待つ」「順番」「貸し借り」
等々、子どもたちの生活はあそびが主になっているので、その中で
少しずつ経験して身につけていきます。

みずぐみの子どもたちも、「お木は順番に登る」「友だちが使
っているおもちゃを、何も言わずに取っていかない」と、その都度伝
えることで、分かるようになってきました。

しかし、「かーしーてー！」と声を掛けると、使っても良いと
思っているところがあるので、いつも借りる側が強気です。こ
れも貸す側を経験することで、関わり方が変化していくので、子
どもたちには引き続き、貸して言えば貸してもらえないものではないと
いう現実も伝えていこうと思います。

しっぽ取り、だるまさんが転んだ、玉入れ(カゴとボール)、動物変
身ごっこ、鬼ごっこは、子どもたちの大好きなあそびです。

あそびの中で学んだルールが、生活にも活かってくるので、様々な
あそびをみんなで楽しみたいと思います。